

ヒロシマ・ナガサキへ!

核兵器なくす一歩踏み出す夏

▶禁止条約に「将来的に賛成してほしい」にシールを貼る高校生(10日、渋谷)



歴史を動かす主人公に

「平和がいい」「核兵器をなくしたい」という願いを実現するために多くの人が集まる、原水爆禁止2018年世界大会(8月2〜9日、広島、長崎)の開催が近づいてきました。平和や核兵器について原宿の高校生75人にアンケートしました。願いを実現するために立ち上がっている高校生を取材しました。(高校生は一部仮名、今井千尋記者)

核兵器なくしたい

7月10日に原宿で行った街頭アンケートでは、回答した全員が「核兵器をなくしたい」と話しました。また、日本は北朝鮮や他の国とも「対話すべき」、核兵器禁止条約に「参加してほしい」という意見が圧倒的多数を占めました(左ラフ)。

「反対」していません。これに對して街頭では「日本は核兵器を持っていないのに、何で反対なのかわからない」、アメリカの意見に賛成ばかりでは日本の地位は上がらない(2年、女性)という声もあります。

日本は禁止条約参加を

核兵器は「危ない」「怖い」という声と同時に、「北朝鮮のミサイル発射をテレビで見ると怖い(3年、女性)」「北朝鮮がまたミサイルを撃ったら危ないから、核兵器を持たないと決めるのは不安(2年、女性)」という意見もありました。

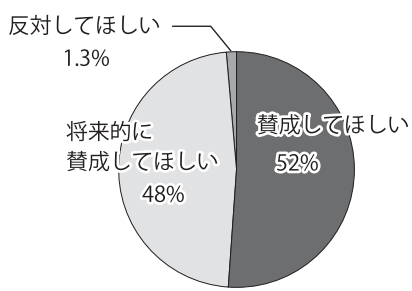
世界の平和の流れ、それに逆行する日本政府の姿勢に對して、「何かしたい」と立ち上がっている高校生がいました。8日、東京高校生平和ゼミナール(平ゼミ)は、原水爆禁止世界大会に向けて『ヒバクシャ国際署名』に取り組んでいます。

現地だからできる体験

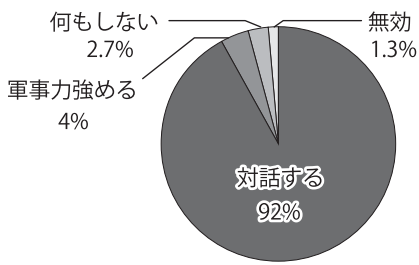
1955年から毎年開かれてきた世界大会は、「核兵器のない平和で公平な世界」へ向けて、国連、政府、自治体、国内外の平和運動の共同をつくる役割を果たしてきました。

前出の未優さんは、昨年初めて世界大会に参加し、「参加者の熱気がすごい!」大きな会場にたくさんの人があり、人々の生活があったと実感して悲しくなりました。原爆は生活を奪うもの」と感じた経験を語りま

昨年、核兵器禁止条約ができましたが、日本は反対しています。どう思いますか?



6月に米朝首脳会談が行われ、対話によって非核化の努力が進んでいます。日本はどうすべきですか?



高校生75人にアンケート(10日、原宿) ※複数回答あり

署名をやっている」
「今年に友だちを誘って参加する」といふ隼さん(3年)は、「友だちは戦争を良くないと思っていて、人々と仲良くするのが好きだから、気遣って誘ってみた」と話します。隼さんは「被害状況とリアルな実態を知りたかった」と昨年初めて大会に参加しました。「長崎では、被爆当時の地層を見た。家の瓦や茶わんなどが、人々の生活があったと実感して悲しくなりました。原爆は生活を奪うもの」と感じた経験を語りま



▲アメリカによるマーシャル諸島での水爆実験の被害について話す海外からの参加者(2017年8月8日、長崎)